

2021年度

自己評価報告

2022年11月

学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪

I 学校の教育目標

1. 学校の概要、目標

(1) 学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色について

①教育理念

グローバルな視点を持ち、
職業現場でホスピタリティを実践し、
人と社会に貢献できる人財を育成します。

②教育方針

私達は、ホスピタリティ産業で求められるプロフェッショナルを養成するため、4つの教育を行います。

1. 相手の立場に立って行動できるホスピタリティ教育
2. 職業現場で活躍できる職業実践教育
3. 生涯にわたって、教養を高めて、自己啓発ができる動機づけ教育
4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育

II 自己評価総括

本学自己評価のメンバーは、以下の通りである。

常務理事・学校長：高田 直樹

総務部長：大内 明男

広報部次長：田畑 ゆかり

教務部次長：田中 照人

教務部課長代理：宮地 理賀

教務部課長代理：古内 美沙

教務部課長代理：小澤 和哉

本学の自己評価は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局発行が発行した「学校評価ガイドライン」に準拠したものである。

各設定項目に対しては、概ね「適切」であるという結果となった。これもひとえに、関連業界はもちろん、多くの卒業生や教育機関各位の協力の基に成しえたことであり、この場をお借りして感謝の意を表したい。

この結果に慢心せず、業界との緊密な連携の基、さらなる高みを目指していきたい。

Ⅲ 評価項目の達成状況・取組状況

1. 教育理念・目標

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
②	学校における職業教育の特色があるか	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

【課題】

コロナ禍の影響を受け、観光業界のビジネスモデルや産業構造が著しく変化しており、業界の変化に対応した職業教育の構築と、学生・保護者への周知が必要である。

【今後の改善方策】

観光業界の変化やニーズを捉え、従来の職業教育に加え、時代の変化に即した柔軟なカリキュラム編成の推進を図るとともに、様々な状況に対応できる人間力の高い人材を育成すべく、各科目の到達目標、目的の周知を行う。

2. 学校運営

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④	人事・給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

【課題】

「学生との接し方」をコンプライアンスの観点から重要視している。

2017年度に制定した倫理規定を基に「社会通念に即した教職員」であるべく振舞っている。

【今後の改善方策】

学生への連絡やコミュニケーションの手段としてのITツールを研究し、適切な距離感を保つ工夫を実践していく。

3. 教育活動

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学接続によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4

⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

【課題】

- ・能力開発の研修機会を増やすことができたが、教員によって研修参加率に差があるため、研修に対する意欲向上にさらなる改善の余地がある。
- ・コロナ禍によりインターンシップ先の確保が困難な状況が続いており、職業実践の機会の確保が必要である。

【今後の改善方策】

- ・外部講師からの指導や、教員同士の学び合いの機会を設け、教員研修の頻度と質の向上に向けて取り組む。各業界及び教育現場に必要とされる研修やセミナー情報の発信を引き続き行い、個人の達成目標に応じた研修の積極的参加を促すシステムを構築する。上司との週1度の面談を活用し、自己研鑽についての進捗確認を行い、個人のキャリアアップのサポートを実践する。
- ・引き続き、業界における職業実践の場を提供いただけるよう各企業様へ依頼を行うと共に、週末や放課後を活用した継続的なインターンシップに加え、夏期・冬期休暇期間中の短期インターンシップなど、柔軟な制度を構築する。

【特記事項】

「関連分野での産学連携及び企業協力」において、下記の顕著な実績がある。

- ・旅行科が（一社）日本旅行業協会主催の「学生と旅行会社で作る海外旅行企画コンテスト」に6チームが参加し、1チームが（株）近畿日本ツーリスト様と連携し、グランプリを受賞（作品名：～幌馬車グランピングで大人も子供もワクワク～家族で作る夏の思い出/アメリカ・ユタ州7日間の旅）、3年連続のグランプリ受賞となった。
- ・南海電気鉄道株式会社様、豊橋鉄道株式会社様と連携して、車庫内見学、運転体験、安全とサービスについての研修を受講した。工場の概要の説明、塗装・修繕・検査などの各部門を見学することで、安全輸送への責任と鉄道業界を支える仕事を学ぶ機会となった。
- ・エアライン科グランドスタッフ講師として（株）JAL スカイ大阪様、ANA 関西空港（株）様から各1名受け入れを行い、現場出向者ならではの臨場感溢れる授業を展開している。

4. 学修成果

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	就職率の向上が図られているか	4
②	資格取得率の向上が図られているか	4
③	退学率の低減が図られているか	4
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

【課題】

- ・当校の教育が卒業後のキャリア形成にどのように生かされているかを把握し、カリキュラムに反映させるフローを整える必要がある。

【今後の改善方策】

- ・在校生に実施している「授業改善アンケート」を活用し、卒業生に向けた調査を実施したい。22年度に外部コンサルタントを入れて教育調査について見直しを行う。

【特記事項】

(1) 今年度の退学率は6.4%（前年7.3%）に改善した。

現方策を継続し、より丁寧実践していきたい。

- ・出席率の低下や個別面談から退学の前兆を予見し、各学科で早期に対応する体制をとっている。また、年次・月次の比較による退学の要因分析により、全校的な退学防止の取り組みを行っている。
- ・全学生の4月、10月面談を実施。進路に対する不安など、心のケアに努め、学科の教員一丸となり全学生の情報共有を行った。また、1,2年生の交流の場を積極的に設けるなど、退学防止を意識高く実施した。

(2) 進路決定率は、100%（前年97.9%）、他業界16.7%（前年17.7%）に改善した。

- ・コロナ禍の影響で求人数が減少する状況下で、他業種を含む進路指導のあり方を検討した。他業界志望者については、本学で学んだ知識やスキル、ホスピタリティマインドを活かすことができるような医療業界、服飾・美容業界、葬祭業界などの求人の開拓に努め、定期的に学内説明会や採用選考会を実施し、マッチングに繋げた。

5. 学生支援

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦	保護者と適切に連携しているか	4
⑧	卒業生への支援体制はあるか	4
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
⑩	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	3

【特記事項】

- ・ 学生生活全般や就職に関しては担任、学費・住居・保険に関しては事務局（経理・学生課）、進路・就職に関する包括的な相談窓口としてキャリアカウンセラーと、各種の相談体制をとっている。また、全教員が臨床心理士による研修を受け、心因的な相談に乗る手法を学んだ上で、個別に対応している。
- ・ 教職員数名ずつが順次、心理カウンセリング講座（学園オリジナル講座 18 回）を受講し、得た学びを共有することで、教員全体のカウンセリング及びコミュニケーション力を高め、多様な学生の対応に活かしていく。
- ・ 入学予定者に対する各種の学費減免制度を設定している他、学費一括納入が不可能な学生に対しては分納の相談に応じるなど、専任者による細やかな対応を行っている。
- ・ 学生課主管で X 線撮影までの健康診断を実施し、同部署で保健室の管理も行っている。
- ・ 地方学生のための安価で安心な住居紹介や、連携業界でのアルバイト紹介を行っている。
- ・ 校内進路説明会以外でも、高校から当校へ来校して行う学校見学会や高校からの依頼による進路講演、卒業生講演、マナー指導、面接指導等の実施実績がある。
また、観光分野における高専接続教育実施に向け、観光系科目・コース設置高校や通信制高校への企画提案を行っている。

6. 教育環境

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
③	防災に対する体制は整備されているか	3

【課題】

昨今の大規模災害の対応として、全校規模の避難訓練の必要性を認識。コロナ状況下での訓練方法を工夫する必要がある。

【今後の改善方策】

消防署のアドバイスをいただき、実施を計画する。

【特記事項】

- ・ 消防計画は随時改定し、大阪市西消防署に提出済。また、地震発生時の帰宅困難者対応のために、在校生数に対応した災害備蓄品を用意している。

7. 学生の受入れ募集

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③	学納金は妥当なものとなっているか	4

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

特になし

【特記事項】

・各学科の魅力や付加価値を高めるべく「学科魅力付けプロジェクト」を継続実施中。成果は学生募集の面からも情報発信していく。

8. 財務

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

特になし

【特記事項】

・無借金による学校運営を実現しており、中長期的にも盤石な体制となっている。なお、財務諸表はホームページに掲載している。

9. 法令等の遵守

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④	自己評価結果を公開しているか	4

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

特になし

【特記事項】

2013 年度から、自己評価結果を公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

【課題】

社会貢献の一環として SDGs への取り組みに参画したい。

【今後の改善方策】

2020 年度より校内に SDGs プロジェクト委員会を設置し、2025 年に大阪で開催予定の大阪・関西万博でのプログラム「EXP02025：共創パートナー」※に登録。大阪校教職員と学生で意義のある活動をしていきたい。

※「EXP02025:共創パートナー」とは万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現や、SDGs 達成に貢献するなど「理想とする未来社会を共に創り上げていくこと」を目指すプログラムです。

【特記事項】

(一社) 全国農協観光協会様との産学連携により、和歌山県紀ノ川市及び紀美野町を舞台に、地域創成を目的としたツアー企画の造成・提案を行いました。提案した企画は協議後に商品化され、2022 年秋に協会会員様へ向けて販売される予定。(旅行科)

1 1. 国際交流

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか	4
③	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

特になし

【特記事項】

- ・留学先としてアメリカ・シアトルに現地法人を有し、台湾・台北には代表者事務所を設置。希望する日本人留学生を同地の大学に1年間派遣し、現地での学習成果に対する成績表を発行している。

以上